

第九十三回楽々俳句会(ちば歩)

令和五年三月九日(木) 晴

吟行・県庁展望階 十時集合 投句三句

句会場：活動センター 十三時集合

五句選

久武 啓蟄や土手に戯むる雀たち

1 2 春霞パツチワークの千葉の町

1 天望の玻璃の回廊遠方の春

武久 1 剪定の羽衣の松天女待つ

3 6 球春や世界を沸かせる二刀流

2 2 戦争も平和も知った雛飾る

2 2 手入れせぬ庭の隅から春の色

1 2 春光や前行く人の背和らぐ

1 2 俯瞰せしコンビナートや遠霞

3 向き合うて一汁一菜今朝の春

2 天望のぐるり一周遠霞

煙突の横縞も褪せ沖かすむ

水温む今が旅立ち雲流る

1 2 春の海波の合い間に光の輪

1 光りつつ水輪広がり春の波

1 制服の寸法合わせいそぐ春

3 春愁う緩むコロナの規制かな

3 草の芽や土手道隠す都川

3 香を連れて茶屋で一服梅日和

2 霞分けやつて来さうな花便り

2 露のとうひよつこり見上げる線路端

2 春立ちぬ靴底の土とんと落とし

2 早咲きのビルの谷間や桜色

早咲きの梅ビルの谷間の桃色に

1 ママチャリのヘル桃色前後

1 遠霞引き船ゆくりゆくりかな

1 レストラン筑波も富士も遠霞

1 花菜風千倉海岸波高し

1 公園の水音響く風光る

風光る公園の水音ひびく
1 風光る街行く人はコート手に
弘子

コート手に街行く人や風光る

1 青空に背伸び競う土筆かな

1 羽衣松四肢舞う天女うららかや

うららかや天女舞う四肢羽衣松

1 陽春の梅子の眼律律しかり

1 暮れ方は朝方に似て菜花畑

1 春日受け県庁の窓シヤンゼリア

1 春めきて川の流れもゆるやかに

1 春風に髪なびかせて出勤す

1 煙突の霞む出島の潮静か

あたたかや羽衣の松どつぷり入る

羽衣の松にどつぷりあたたけし

春の水溢ふるる香り花屋から

春めく日近代ビルにバケツ置く

咳き込めば詩集の文字の揺れにけり

しわぶきや詩集の文字の飛び出せり

竜天にのぼる野原の風の軽さかな

駅ナカの街も脱昭和

海苔の海今は昔の行楽地

背景を富士と筑波に春の房

潮引いて朝日微笑む磯開き

うららけし灰色の街色づく木々

まつすぐなパイパス道春の川

灰色の街色づく木々やうららけし

パイパス道や

洋子・恵美子・弘子・育子・ミチ子・静代・今日子・園子・宣子

信雄・利太郎・粹歩・豊隆・武彦・久登

退会 奥山酒泉

投句 成子

四月十三日(木) 千葉公園 九時集合

五月十一日(木) 京成千葉 九時集合

六月八日(木) 千葉公園 九時集合

十時 活動センター

弘子

利太郎

ミチ子

成子

ミチ子

粹歩

弘子

静代

久登

咳は冬の季語

春の昼

春めくや

咳は冬の季語

予定

参加者

洋子・恵美子・弘子・育子・ミチ子・静代・今日子・園子・宣子

信雄・利太郎・粹歩・豊隆・武彦・久登

退会 奥山酒泉

投句 成子

四月十三日(木) 千葉公園 九時集合

五月十一日(木) 京成千葉 九時集合

六月八日(木) 千葉公園 九時集合

十時 活動センター